

2025年の渋谷ハロウィーンはどうだったか？

佐々木 隆

プロローグ

筆者はポップカルチャーが社会にどのような影響を与えているのかに注目し、その一環として渋谷ハロウィーンを事例として取り上げた。ここ数年では「渋谷ハロウィーンを振り返る—その変遷と時流—」(佐々木 a 1-75)、「渋谷ハロウィーンの原点とは」(佐々木 b 1-123)、「コロナ後の渋谷ハロウィーン」(佐々木 c 1-23)を発表してきた。コロナ前の2018年には渋谷センター街での軽トラックの横転事件を契機に、行政が積極的に関わる方向に変わってきたことだ。容認から規制へと方針が転換されたことだ。条例で規制がかかったが、罰則がなかったことでその実効性の疑義が持たれた。実際には2024年の渋谷ハロウィーンでは大きな混乱はなかった。2025年度ではどうであったかを今回取り上げる。

1 コロナ後の渋谷ハロウィーンの課題

コロナ後のハロウィーンで最も注目が集まったのは2点ある。第1点は2022年10月にソウルの梨泰院地区で起きた大惨事で159人が亡くなったことに対する不安、第2に2023年5月に感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律により新型コロナウイルス感染症の扱いが2類から5類へ移行されたことで、行動制限がなくなったことだ(佐々木 c 1)。筆者は「コロナ後の渋谷ハロウィーン」(2025)の結論として以下のように述べた。

2023年には5類移行後の初めての渋谷ハロウィーンにしろ、2024年にしろ、行政側の意志表示が、渋谷駅前の横断幕やハチ公の封鎖という可視化によって示されたこと、マスクミがこれを大きく取り上げたことは一定の成果を収めたと言ってよいだろう。これをいつまで続けるのかも今後の課題となることは明らかだ。同じやり方だけでは外国人の抑制には不十分だ。SNSを含め、さらなる工夫が求められるだろう(佐々木 c 21)。

これまで若者が集まり、特に渋谷センター街が制御不能になるといった事態とは様相が変わり、外国人をどのように制御するかが新たな問題として生じている。これは単に渋谷ハロウィーンにSNS等の影響により集まって来るということもあるが、日本政府観光局(2025年1月15日)による発表によれば、2024年の訪日外国人は年間で3,600万人を突破し過去最多であったという(日本政府観光局 a 2025)。オーバーツーリズムの余波が渋谷にも影響していると言ってもよいかもしれない。東京については国際的な市場調査会社ユーロモニターインターナショナルはこのほど、「2024年トップ100都市デスティネーション・インデックス(Top 100 City Destinations Index 2024)」(2024年12月9日)によ

れば、第 1 位がパリ、第 2 位がマドリッド、第 3 位が東京であった（トラベルボイス 2024）。日本政府観光局の 2025 年 12 月 17 日の発表によれば、2025 年 11 月段階ですでに「11 月の訪日外客数は 3,518,000 人で、前年同月比では 10.4% 増となった。11 月までの累計では 39,065,600 人となり、年間で過去最高を記録した 2024 年の 36,870,148 人を上回った」という（日本政府観光局 b 2025）。

ハロウィーンという特定の時期に渋谷に外国人が集まるというよりは、観光行動の一環で日常的に渋谷に外国人が訪問しているのが現状だ。SNS により過去の情報や動画がアップされているだけに、ハロウィーンの時期に東京にいれば、渋谷に行ってみようという行動は不思議なものではない。

2 2025 年の渋谷ハロウィーン

コロナ以後、渋谷区がとってきたおもな対策は以下の通りである（佐々木 c 7-9）。さらに 2025 年の対応も付け加えておきたい。

2019 年 6 月 「渋谷駅周辺地域の安全で安心な環境の確保に関する条例」

2023 年 9 月 長谷部区長、ハロウィーンに「渋谷に来ないで」宣言

※9 月 12 日。

2023 年 10 月 長谷部区長、日本外国特派員協会で「渋谷に来ないで」を記者会見。

※10 月 5 日。

2023 年 10 月 渋谷区、渋谷駅前に「渋谷はハロウィーンイベントの会場ではありません」(NO EVENTS FOR HALLOWEEN ON SHIBUYA STREETS)

の巨大看板を設置（費用約 4800 万円投入）

※10 月 17 日。

2023 年 10 月 ハチ公像の封印

※10 月 28 日。

2024 年 6 月 渋谷駅周辺地域の安全で安心な環境の確保に関する条例の一部改正について

※10 月 1 日施行。

2024 年 10 月 長谷部区長、吉住健一区長、日本外国特派員協会で「渋谷・新宿には来ないで」「ハロウィン」前に外国人観光客へ両区長が訴え...夜間の路上飲酒も禁止」を記者会見

※10 月 7 日

※「ハロウィーンをお休みします。」NO EVENTS FOR HALLOWEEN ON SHIBUYA STREETS.)

2024 年 10 月 ハロウィーン期間の忠犬ハチ公像周辺の仮囲いおよびプレスエリアの設

置について

※10月17日

2025年10月 長谷部区長、渋谷ハロウィーン対策を発表。「禁止だよ！迷惑ハロウィー」(STOP TROUBLESOME HALLOWEENS)

※10月2日。

※「ハチ公像の周辺を封鎖し、酒の販売自粛などの対策のほか、今年
は新たに渋谷駅周辺で電動キックボード「LUUP」が利用できない
ように協力を求めたということです。」⁽¹⁾

2025年10月 ハチ公像の封印

※10月21日発表。

2025年の渋谷ハロウィーンへの渋谷区の対応はおもに4つ。

- 1 ハチ公像の封鎖
- 2 路上飲酒と酒類販売の規制
- 3 警備体制の強化
- 4 電動キックボードの停止
- 5 多言語での注意喚起

上記の4～5が特に新たに強化された対応だ。

4 電動キックボードの停止

「東京都渋谷区は2日、10月末の渋谷駅周辺のハロウィーン対策を発表した。電動キックボードなどのシェアリング事業を手掛ける Luup (ループ、東京・品川) が貸し出し・返却拠点 (ポート) 15カ所を停止するほか、警察が交通規制する。区は2024年10月、同駅周辺の路上や公園での夜間の飲酒を条例で通年禁止しており、来街者らによる迷惑行為の防止につなげる (日本経済新聞 a 2025)。」

5 多言語での注意喚起

「東京都渋谷区は2日、今年ハロウィーン期間中の迷惑行為防止に向けた対策を発表した。路上飲酒禁止エリアの周知や通行規制、酒類販売の自粛要請といった従来の対策に加え、仮装して訪れる外国人の増加を踏まえ、新たに多言語でのマナー啓発を行う。

渋谷区は渋谷駅周辺区域に訪れる人々による路上飲酒・喫煙やゴミのポイ捨て、通行妨害などの行為を「迷惑ハロウィーン」と規定。今月中旬以降、街頭の大型ビジョンなどで日本語と英語だけでなく、中国語や韓国語でもルール順守を呼びかける。(産経新聞 2025)」

筆者が特に注目したいのは「5 多言語での注意喚起」である。筆者はもともと外国人への対策が必要であることは指摘していたところだ（佐々木 c 21）。発表の文面には「該当の大型ビジョンなどとしているが、当然ここにはSNSを利用しての注意喚起が含まれているのだろう。外国人への注意喚起ともなれば、多言語によるSNSでの注意喚起は必須といってもよいだろう。過去の動画が消えない以上、新しい情報を積極的に発信する必要がある。

外国人向けのインターネット記事も見ておきたい。

Shibuya calls for 'Stop Troublesome Halloweens,' bans electric scooters

Oct. 3, 2025

TOKYO

Tokyo's Shibuya Ward has announced a "Stop Troublesome Halloweens" campaign as part of its Halloween measures for the end of this month, with increased vigilant measures by ward officials and a ban on the use of electric scooters.

Shibuya Ward Mayor Ken Hasebe said at a press conference Thursday, "The key phrase for Shibuya Ward's Halloween measures this year is 'Stop Troublesome Halloweens.'"

Ward officials said that in addition to sealing off the area around the statue of Hachiko as usual, police will also issue warnings to anyone engaging in nuisance behavior, such as drinking alcohol on the street at night, smoking on the street and littering, which are prohibited by ordinances.

In addition, as many foreigners gather in Shibuya at Halloween, the ward will create posters in Korean and Chinese in addition to English.

This year's Halloween falls on a Friday, and large crowds are expected (JapanToday 2025) .

もう一つ記事を見ておこう。

'Stop troublesome Halloweens': Tokyo ward ramps up security, discourages crowds

By HANA KUSUMOTO STARS AND STRIPES • October 29, 2025

TOKYO — The mayor of Shibuya ward is urging people to not cause trouble in his district's popular nightlife area on Halloween night. Shibuya — known for its iconic scramble crosswalk and a statue of Hachiko the faithful dog near the train station — is a major shopping and entertainment hub for locals and tourists. Its narrow side streets, lined with retailers, bars and restaurants, have in recent years drawn large

crowds of costumed revelers celebrating Halloween. After a crowd crush killed 159 people in South Korea's capital in late October 2022, Shibuya Mayor Ken Hasebe strongly discouraged gatherings in his ward, citing safety concerns. Public drinking and littering have become major problems as thousands of people gathered near the station on Halloween night. Fights broke out and property damage was reported. In 2018, four people were arrested on suspicion of overturning a truck on a narrow street near the scramble crossing, according to a report that December by the Mainichi newspaper (Stars and Stripes 2025).

記事により強調している点異なるが、JapanToday は渋谷区が重点的に対応していることを反映している。外国人観光客に電動キックボードを使用したり、路上飲酒をすることへの注意喚起がなされている。

2025年10月20日から11月3日にかけての新聞記事を見ておきたい。

新聞	記事
『朝日新聞』	<p>ハチ公、ハロウィーンお休み</p> <p>31日のハロウィーンに向けて渋谷区は、JR 渋谷駅前の「忠犬ハチ公像」周辺に覆いをかけて目隠しした。人が密集して事故が起きることを防ぐため、3年連続の対策となる。</p> <p>30日午前6時過ぎから20人ほどの作業員が資材を運びこみ、「ハチ公像周辺は封鎖となります」「禁止だよ！迷惑ハロウィーン」などと書かれた幕でハチ公像を囲い込んだ。覆いは11月1日早朝に撤去される予定。</p> <p>渋谷駅周辺は例年、ハロウィーンに多くの人が集まり、ゴミの散乱や飲酒トラブルなどが問題となってきた。区は条例で一帯の路上飲酒を禁止するなど対策をとっている。(10月31日朝刊、第19面)</p>
『読売新聞』	<p>身近な食材でハロウィーン 楽しく「バーガー」「ランタン」</p> <p>31日はハロウィーン。家で楽しもうと思っても、料理となると、何を作っているのか分からない。パーティ料理研究家の五条まあさちゃんに、ハロウィーンの食卓をにぎやかにしてくれる量利を教えてもらった。(10月29日朝刊、第12面)</p> <p>※写真入りでモンスターバーガーとオレンジのジャック・オ・ランタンが掲載されている。</p> <p>31日渋谷・新宿警戒 ハロウィーン路上飲酒禁止 外国人向け発信強化</p> <p>31日のハロウィーンを前に、東京都渋谷区や新宿区が急増するインバウンド(訪日外国人客)への対応に苦慮している近年、路上での飲酒を禁止する区条例を知らずに街を訪れる外国人が後を絶たないため、今年から多言語で迷惑行為の禁止を呼びかけるなど、ルールのお知らせを図っている。(10月30日夕刊、第8面)</p>

	<p>警察官にカメラ 混雑把握へ 警視庁 ハロウィン当日の31日、警視庁は交通事故やトラブルを防ぐためJR渋谷駅周辺に機動隊員ら数百人を動員し、警戒にあたる。訪日外国人が多く集まることも予想され、スピーカーを使い、英語や中国語などでも注意を促す予定だ。</p> <p>通行人をマイクで誘導する「DJポリス」を配置するほか、一部の交差点では車を通行止めにする。また、混雑状況に応じて渋谷センター街での左側通行を呼びかけていく。(10月30日夕刊、第8面)</p>
『日本経済新聞』	掲載なし。

2025年11月上旬には渋谷ハロウィンに関する上記の紙媒体上の記事はなかった。また、『日本経済新聞』では10月下旬の取り扱いはなかったようであるが、オンライン版では記事が掲載されていた。インターネット記事は掲載上の制限がないため、記事も頻繁に更新される傾向にある。2015年10月下旬から11月上旬の間には2025年10月21日に高市早苗が第104代内閣総理大臣が誕生、クマの出没、MLBではワールドシリーズが開催され、大谷翔平、山本由伸等の活躍なども報道され、新聞でも大きく取り上げられた。

実際の2025年の渋谷ハロウィンはどうであったろうか。「大雨の「渋谷ハロウィン2025」コスプレイヤーは外国人ばかり、「ガチ」よりも「ライト」に済ませる人が多数」(2025/11/2)の記事では以下のような紹介文がある。

今年は「ライトコスプレイヤー」が大半

それでも仮装をして歩く人は、やはり外国人旅行者を中心に数多くいたことはここに記載しておく必要がある。

傘を差しながら、あるいは透明のレインコートを着ながらも気合いの入った仮装をしている人も頻繁に見かけることができた。その場で立ち止まって写真撮影を始め、警察官に見つかって移動を促される——という光景もあちこちで繰り返されている。ハロウィン当日のスクランブル交差点周辺や渋谷センター街では、滞留を作らせないため歩道での立ち止まりが禁止されている。

そうした事情もあったので、今回撮影できたコスプレイヤーの写真はかなり限られてしまった。それでも、当日の渋谷の様子を伝えるには十分な量は撮影できたはずだ。

「ガチ」のコスプレイヤーもいれば、簡単な仮面や装飾のついたカチューシャのみで済ませる外国人旅行者・就労者も。より正確に書けば、今年の渋谷ハロウィンはちょっとしたパーツを身に着けるだけで済ませる「ライトコスプレイヤー」が大半だった(Yahoo Japan!ニュース 2025)。

2025年の渋谷ハロウィンは渋谷スクランブル交差点や渋谷センター街に人が集中しないように、昨年同様に渋谷駅を出ると迂回ルートが設定されたことや雨が降っていたこともあるが、2024年もそうであるが、日本人の若者の渋谷ハロウィンへの関心度は以前ほど高

くないようだ。むしろ外国人が目立つ傾向であることは踏襲された。

3 ポップカルチャーからオーバーツーリズムへ

渋谷ハロウィーンを考える上で「外国人」はひとつの大きなキーワードになっている。外国人とはいっても、就労や留学している在留外国人もいれば訪日外国人観光客もいる。ここでは当然後者が大きなターゲットになる。渋谷に外国人に集まるのは何もハロウィーンの時期ではない。すでに述べた通り、2025年は過去最高の訪日外国人数に達した。ここで新たな問題が浮上してきた。オーバーツーリズムである。「渋谷はハロウィーンをお休みします」 区がハロウィーン対策発表」（2024.10.07）の中でも次のように述べていた。

外国人観光客が多くオーバーツーリズムの問題も絡んでくることから、同時に「中長期的な取り組みとして、観光客の分散化を図ることが重要」と考える。分散化に向け、公園通りなど周辺地域での回遊イベントの実施、時間帯や季節の分散化のため夜間や閑散期などに施策を行うなど「一点集中を避ける対策」や、他の観光資源への誘致、回遊施策として飲食店やライブハウス、クラブなどのナイトタイムエコノミーの魅力発信を行い、スクランブル交差点をめぐって来た観光客を周辺地域へと誘導することも検討しているという（シブヤ経済新聞 2024）。

このオーバーツーリズムは単に人が多すぎると言う問題から、渋谷で浮上した問題はゴミ問題だ。渋谷区は以下のような対策をとった。

渋谷ハロウィーンの時期以降も日本経済新聞「ごみ箱の設置、渋谷のカフェ・コンビニで義務化 過料5万円の条例可決」（2025年12月10日）

東京都渋谷区議会は10日、渋谷駅周辺など区中心部で営業するコンビニやカフェが正当な理由なくごみ箱を設置しなかった場合、5万円の過料を徴収する条例改正案を可決した。区内全域でごみのポイ捨てをした人からも新たに2000円の過料をとる。2026年6月から罰則の適用を始める。

従来からごみ箱の設置義務があった自動販売機も新たに5万円の罰則を設ける。店舗が販売した飲料や食品のごみを各店舗が回収することを求め、街中でのごみ放置を防ぐ。区中心部はインバウンド（訪日外国人）など来訪者が増えた一方、ごみの散乱が問題になっている（日本経済新聞 b 2025）。

さらに、日本経済新聞「渋谷区長「東京都の宿泊税に期待」 オーバーツーリズム対策強化訴え」（2025年12月18日）が発表され、

東京都渋谷区の長谷部健区長は18日、都の宿泊税の見直しに関し、オーバーツーリズム（観光公害）対策強化につなげることへの期待感を示した。都は一律3%の「定率制」を2027年度中にも導入する方針で、100～200円の定額制の現在より増収が見込まれる。長谷部氏は「宿泊税をゴミ対策などの費用に充ててほしい」と求めた（日本経済新聞 c 2025）。

やまごころ編集部「東京が3位、大阪・京都もトップ20入り。日本の都市が存在感一 2025年世界観光都市ランキング9」（2025.12.19）によれば、以下の通りである。

パリが5年連続首位、東京は世界3位を維持。日本勢3都市トップ20に2025年版ランキングで首位に立ったのはフランスのパリ。これで5年連続の世界1位となり、文化・歴史資産の厚み、都市としてのブランド力、交通や宿泊を含む観光インフラの完成度の高さが引き続き高く評価された。成熟した観光都市でありながら、常に新たな体験価値を提供し続けている点が強みだといえる。

2位にはスペインのマドリード（マドリッド）がランクインした。都市の持続可能性や観光政策の先進性、都市活力の高さが評価されており、欧州都市の存在感を改めて示す結果となった。

3位には日本の東京が入り、前年に続いて世界トップクラスの観光都市としての地位を維持した。文化、食、エンターテインメント、都市の利便性といった多様な魅力を兼ね備えた年として評価されている（やまごころ編集部 2025）。

東京だけに注目するというよりは全体的に日本の都市への注目が集まっているのである。

今回のランキングでは、日本の都市が総じて評価を高めている点も注目される。東京に加え、大阪と京都がトップ20にランクイン、トップ20に3都市を送り込んだのは調査対象国・地域で日本だけだ。さらに札幌や福岡といった地方都市もトップ100に名を連ねており、訪日観光の裾野が広がっていることがうかがえる（やまごころ編集部 2025）。

unbot「【速報&徹底解説】2025年訪日外客に人気の東京都内スポット 人流データを用いて解説」（2025年4月30日）も紹介しておきたい。

3. 東京人気エリアの人流データと傾向

中でも気になるのが東京人気エリアの人流データ。観光庁の調査による2024年の訪日外国人延べ宿泊者数で最も多かった都道府県も東京都（537万3170人泊・2023年同月比24.1%増）となっています。

- やまところ編集部 (2025). 「東京が 3 位、大阪・京都もトップ 20 入り。日本の都市が存在感 —2025 年 世界観光都市ランキング 9」、
https://yamatogokoro.jp/inbound_data/58790/、2026 年 1 月 8 日アクセス。
- JapanToday (2025). “Shibuya calls for ‘Stop Troublesome Halloweens,’ bans electric scooters” <https://japantoday.com/category/national/Shibuya-Ward-calls-for-Stop-Troublesome-Halloweens-and-bans-electric-scooters>、2026 年 1 月 14 日アクセス。
- Stars and Stripes (2025). “Stop troublesome Halloweens’: Tokyo ward ramps up security, discourages crowds”
https://www.stripes.com/theaters/asia_pacific/2025-10-29/halloween-crowds-shibuya-tokyo-19582264.html、2026 年 1 月 14 日アクセス。
- Unbot (2025). 「【速報&徹底解説】2025 年訪日外客に人気の東京都内スポット 人流データを用いて解説」(2025 年 4 月 30 日)
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000067.000030089.html>、2026 年 1 月 8 日アクセス。
- Yahoo Japan!ニュース (2025). 「大雨の「渋谷ハロウィン 2025」コスプレイヤーは外国人ばかり、“ガチ”よりも“ライト”に済ませる人が多数」
<https://news.yahoo.co.jp/articles/3c54d46315c481bdb7ad2cbd95b6587e2fe23a79?page=1>、2026 年 1 月 4 日アクセス。

引証資料

- 佐々木隆 a (2024). 「渋谷ハロウィーンを振り返る—その変遷と時流—」、『ポップカルチャー・若者文化研究』、第 12 号、ポップカルチャー・若者文化研究会。
- 佐々木隆 b (2025). 「渋谷ハロウィーンの原点とは」、『ポップカルチャー・若者文化研究』、第 18 号、ポップカルチャー・若者文化研究会。
- 佐々木隆 c (2025). 「コロナ後の渋谷ハロウィーン」、『ポップカルチャー・若者文化研究』、第 20 号、ポップカルチャー・若者文化研究会。
- 産経新聞 (2025). 「「迷惑ハロウィーンは禁止」多言語でのマナー啓発など、東京・渋谷区が今年の方策発表」(2025 年 10 月 2 日)
<https://www.sankei.com/article/20251002-OJOB AFSPC5KFVAN5S675MF7FG4/>、
2026 年 1 月 1 日アクセス。
- シブヤ経済新聞 (2024). 「「渋谷はハロウィーンをお休みします」 区がハロウィーン対
策発表」、<https://www.shibukei.com/headline/18700/>、2026 年 1 月 14 日アクセス。
- トラベルボイス (2024). 「世界の観光都市ランキング 2024 発表、東京はついにトップ 3
入り、要因は手ごろな価格と優れたインフラ、首位はパリで 4 年連続 —ユーロモニタ
ー調査」、<https://www.travelvoice.jp/20241209-156820#:~:text=%E6%9D%B1%E4%BA%AC%E3%81%AF2022%E5%B9%B4%E3%81%AE,%E3%81%8C65%E4%BD%8D%E3%81%A0%E3%81%A3%E3%81%9F%E3%80%82>、2026 年 1 月 1 日アクセス。
- 日本経済新聞 a (2025). 「渋谷駅周辺、電動ボード貸し出し停止 ハロウィーン対策で」
(2025 年 10 月 2 日)
<https://www.nikkei.com/article/DGKKZO91690500S5A001C2L83000/#:~:text=%E6%B8%8B%E8%B0%B7%E9%A7%85%E5%91%A8%E8%BE%BA,%E4%BC%9A%E5%93%A1%E9%99%90%E5%AE%9A%E8%A8%98%E4%BA%8B%5D>、
2026 年 1 月 1 日アクセス。
- 日本経済新聞 b (2025). 「ごみ箱の設置、渋谷のカフェ・コンビニで義務化 過料 5 万円
の条例可決」、<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCC107ZT0Q5A211C2000000/>
2026 年 1 月 4 日アクセス。
- 日本経済新聞 c (2025). 「渋谷区長「東京都の宿泊税に期待」 オーバーツーリズム対策
強化訴え」、<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCC182KN0Y5A211C2000000/>
2026 年 1 月 4 日アクセス。
- 日本政府観光局 a (2025). 「訪日外客数 (2024 年 12 月および年間推計値)」、
https://www.jnto.go.jp/news/press/20250115_monthly.html、2026 年 1 月 1 日アクセス。
- 日本政府観光局 b (2025). 「訪日外客数 (2025 年 11 月推計値) 11 月 : 3,518,000 人、累
計で過去最高を更新」、https://www.jnto.go.jp/news/press/20251217_monthly.html、
2026 年 1 月 1 日アクセス。

エリア別の訪問率は東京都が「令和5年国・地域別外国人行動特性調査結果」で調べており、「渋谷」(67.1%)、「新宿・大久保」(57.4%)、「銀座」(50.1%)の順(unbot 2025)。

エピソード

2024年の渋谷ハロウィーンの課題は外国人対策が浮上していた。これを受けて渋谷区は2025年の対応では多言語対応をはじめ、外国人を意識した対策が取られた。以前のように若者がハロウィーンの時期に集まってくる現象は下火になったとあってよいだろう。これはコロナ後の大きな特徴だ。これには渋谷区が2023年10月には「渋谷はハロウィーンイベントの会場ではありません」(NO EVENTS FOR HALLOWEEN ON SHIBUYA STREETS)、2024年10月には「渋谷はハロウィーンをお休みします。」(NO EVENTS FOR HALLOWEEN ON SHIBUYA STREETS.)、2025年10月には「禁止だよ！迷惑ハロウィーン」(STOP TROUBLESOME HALLOWEENS)と継続して横断幕を渋谷駅前に掲げたことで渋谷区の考えが可視化されたことや、ごみ問題等の報道が若者に届いたことになる。しかし、一方で外国人には過去の動画によるデジタルタトゥー⁽²⁾により相変わらずハロウィーンの時期に渋谷を訪れると共に、その背景にはオーバーツーリズムがあり、単にハロウィーン対策をしても解決しないことを渋谷区も強く意識し、さらに東京都が宿泊税の見直しなどもあり、オーバーツーリズム対策が東京都でも行われることになった。これを受けて、渋谷区もごみ箱の設置義務などを打ち出し、さらなるごみ対策に強化を図った。

これらの対策は単一年では実を結ぶことはなく、継続することに意味がある。行政として対策に対する費用はかかるだろうが、継続して対応することが大きな混乱を防ぐ一番の対策になりそうだ。

注

(1) 「ハチ公周辺を封鎖 渋谷ハロウィン 今年の規制は【スーパーJチャンネル】」
(2025年10月2日)

<https://www.youtube.com/watch?v=7OAC45v2-Os>、2026年1月1日アクセス。

(2) IDEAS FOR GOOD 「デジタルタトゥー」

<https://ideasforgood.jp/glossary/digital-tattoo/> 2026年1月14日アクセス。

※「デジタルタトゥーという言葉自体は、メキシコの研究者であるファン・エンリケ氏のTEDカンファレンスのテーマに取り上げられたことによって人々に浸透し、2013年ごろから注目されるようになったと言われる。」

執筆者一覧

佐々木 隆 武蔵野学院大学大学院・武蔵野学院大学教授

ポップカルチャー・若者文化研究 第25号

2026年4月30日 発行日

ポップカルチャー・若者文化研究会 編集・発行

〒350 - 1328

埼玉県狭山市広瀬台3-26-1

武蔵野学院大学 佐々木隆研究室内

ポップカルチャー・若者文化研究会事務局

問い合わせ先 : takashi.sasaki@u.musa.ac.jp

